論文

「唯心」「唯物」のペアとしての成立と複合語による展開

言語教育研究科　言語教育学専攻

博士後期課程 2 年

李穏

要約

旧来の中国仏典語に見られる「唯心」は、まず日本語に受け入れられ、＜心だけ＞の意味で使われていた。それから、中国の宋明理学、とくに陽明学の導入とともに、「唯心」と「唯物」は広く使われるようになった。近代に入ると、西洋概念「Idealism」「Materialism」に対して、それぞれ「唯心論」「唯物論」という訳語が使用された。一方、中国においては日本の翻訳書を通じて西洋の哲学や思想を受容した。1902 年の『新民叢報』によって「唯心」「唯物」といった新概念が中国に伝えられてから、二語が広く使用されるようになった。

【キーワード】転用語、『哲学字彙』、非述語形容詞、類義語、日中言語交渉

1. はじめに

「唯心」と「唯物」は元々中国語として使われていた。日本語に伝わった後、宋明理学の流れに乗って、長期にわたって使用されていた。明治期に入ると、西洋概念との対応により、意味が拡大していく。いわゆる近代訳語の転用語とされている。その後、近代的意味と共にその両語は中国語に吸収され、使用されるようになる。その受容過程において、日本語には断定文の述語部に入るが、中国語の断定文の述語にならない「非述語形容詞」という現象が見られる。その二語の「非述語形容詞」としての成立過程を究明することは日中両言語の交渉において意義があると考えられる。

これらの語は哲学用語として早くから『哲学字彙』(1881) に「唯心論」と「唯物論」の形で現れている。その後、心理学にも使われている。麻生繁雄・井上哲次郎による『倍因氏心理新説釈義』(1883) には、「唯心」はないものの、「唯物」は新しい意味が使われていた。また、「唯心」と「唯物」の使用範囲の拡大により、「唯心主義・唯物主義」「唯心論・唯物論」「唯心説・唯物説」など様々な複合語をも生み出している。

本稿では、日本語における「唯心」と「唯物」のペアとしての成立とその複合よる生産性を見てみたい。また、この二つの概念はいつから中国に受容され、使用されたかを考察していく。

2. いわゆる「転用語」としての「唯心」と「唯物」

本稿では、まず、日中両国の代表的な辞書を活用し、「唯心」と「唯物」の意味を確認することにする。もちろん、辞書は言葉の変化に追いつかない場合があり、文脈によって意味が異なる場合もあるが、辞書をもって「唯心」と「唯物」の意味をある程度解釈できると考えられる。『日本国語大辞典』（第２版）（以下『日国』と略す）を引くと、「唯心」は次の３つの意味が確認できる。

ゆい-しん【唯心】

(1) 仏語。一切の諸法はそれを認識する心の現われであり、存在するのはただ心だけであるということ。華厳経（けごんきょう）の中心思想であるが、また唯識と同義にも用いる。

(2) 仏語。自己の心の本性に仏や浄土が内在するとすること。仏や浄土はわが心の中にあるという考え。→唯心の彌陀

(3) 精神だけが真の存在であるとして、精神を本位として考えること。→唯心論。

その記述によると、「唯心」は最初に仏語として使われており、(1) と (2) の意味がそれである。その後、新概念の導入に伴い、(3) ＜精神だけが真の存在である＞という意味へ拡大し、哲学上の概念として使用されるようになっている。

意味 (1) の場合には、平安時代末期の国語辞書である『色葉字類抄』(1177～81) が下記の例を挙げている。

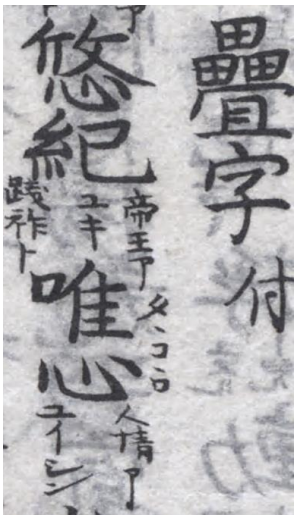


図１『色葉字類抄』における「唯心」

唯心　人情部　ユイシン

「唯心」という言葉を「疊字」として既に収録していた。図１のように、その右のルビに「タゝコゝロ（タダココロ）」と施されている。そして、近代の意味となる (3) の場合には、森鴎外の「精神啓微の評」(1889) の用例を挙げている。

夫れ余は唯物、唯心―正しく言へば主物、主心―の二派の併行を望めり

上記の例の中に、「唯心」と「唯物」は同時に現れていたことが分かるし、「主物」「主心」とも言う。

一方、『日国』における「唯物」を確認すると、

ゆい-ぶつ【唯物】

精神の実在を否定し、ただ物質だけが真の存在だとして、物質を本位として考えること。唯心（ゆいしん）に対していう。

＊精神啓微の評〔1889〕〈森鴎外〉「渠は果して其儘にて之を攻撃せずと雖も、唯物と

唯心との併行は成し得べきものとなすか」

とあるように、初出例として同じ森鴎外の「精神啓微の評」(1889) の例が挙げられている。この特点において、「唯心」と「唯物」は既に対義語のペアとして使用されていることが確認できる。しかし、『日国』の初出例は言語の実際は反映していない。なぜなら、それより早く『哲学字彙』(1881) には「唯心論」「唯物論」のペアが既に出ていた。

『哲学字彙』について、初版・再版の翻刻・索引・解説および名著普及会の復刻版（初版・二版・三版）があり、出版年と書名を確認すると、下記通りである。

初版　1881 年 4 月　　『哲学字彙』

二版　1884 年 2 月　　『改定増補哲学字彙』

三版　1911 年 12 月　『英独仏和哲学字彙』

本稿では、便宜上、『哲学字彙』（初版・二版・三版）を使って説明していく。以下の表 1 のように、『哲学字彙』の各版では、「唯心論」と「唯物論」をもって西洋に由来する新概念に対訳している。

表 1　『哲学字彙』各版における「唯心論」と「唯物論」という項目の比較

版別 / 見出し語	初版	二版	三版
Idealism	唯心論（按、人之於物、止知其不能窺、故古來有唯心之論、王守仁曰、心即理也、天下又有心外之事、心外之理乎）	同	同
Immaterialism	唯心論	同	同
Materialism	唯物論（按、物一而已、以其流行而言、正面而言、謂之氣、以其凝聚而言、謂之体、以其妙用而言、謂之心、以其變化而言、謂之光、謂之熱、謂之鑷、謂之電、其他凡在覆載間者、無一不自物而生、此唯物論所以緣起也）	同	唯物論（按、物一而已、以其流行而言、正面而言、謂之氣、以其凝聚而言、謂之体、以其妙用而言、謂之心、以其變化而言、謂之光、謂之熱、謂之鑷、謂之電、其他凡在覆載間者、無一不自物而生、此唯物論所以緣起也）、物質論

上記の表 1 から分かるように、『哲学字彙』初版と二版の記述が同じである。それに対して、三版では、「Idealism」と「Immaterialism」との対訳は初版・二版は同じだが、「Materialism」の解釈に関しては、新たに「物質論」という訳語が追加されていた。各版

の対訳には、井上による漢文の注釈が括弧内に見られる。それらの注釈と訳語の関係について、陳（2001:321）は、

> 出典を訳語に加えることは一体どういう意義を持っているのであろうか。今までの研究ではあたかも訳語研究の新方法であるかのように評価されてきたが、今回の調査で、むしろ訳語が先に成立し、その後出典をどんどん付け加えたものであることが分かった。

と指摘している。『井上哲次郎自伝』（1973:3-4）[1]を見ると、井上は八歳から四書の『大学』『中庸』を学習し、その後『論語』を読んだことから、漢学の素養が深く、儒教の思想もよく知っていたことが分かる。注釈の漢文も井上の博学を反映している。

王（1958）の研究では、日本人は西洋概念「Idealism」と「Materialism」を訳す際に、中国の仏典語である「唯心」と『易経』からの「唯物」を借用したと言われている。つまり、当時の日本人は新概念と対応する際に、中国の古典から訳語を探し出したということである。しかし、陳(2021:46)は、西洋概念に対訳する際に、「血眼になって中国古典から適当な語を探し求めるのではなく、すでに身につけた儒教や仏教の教養をもって同時代性が重要である」と指摘している。従来では、それらの注釈を漢語の出典とされ、いわゆる「転用語」の根拠の一つとして見られてきたが、これらの漢文と「唯心論」「唯物論」とどういう関わりがあるのかを見ておく必要がある。

『哲学字彙』の「唯心論」の漢文注「王守仁曰、心即理也、天下又有心外之事、心外之理乎」には、明代中期の儒教思想家である王守仁（陽明・1472-1528）の「心即理」の思想を使って「唯心論」の意味を説明しようとすることが見られる。そもそも、「心即理」の思想は王守仁の『伝習録・徐愛引言』によるものである。中には、

> 愛問：「至善只求諸心。恐於天下事理，有不能盡」。
>
> 先生曰：「心即理也。天下又有心外之事，心外之理乎」？（…中略…）都只在此心。心即理也。此心無私欲之蔽，即是天理。（…中略…）［愛は聞く：至善は諸心を求めるのみ。天下の事理に於いて尽きないことがあるのを恐れる。先生は曰く：「心即ち理なり、世の中にはまた心外のことがあり、心外の理があるか？（…中略…）全てはこの心だけにある。心即ち理である。この心には私欲を含んでいない、即ち天理である。］

とある。その思想は井上哲次郎に吸収され、井上の『日本陽明学派之哲学』[2](1900:3-4)には、陽明学と朱子学の差異点の顕著なるものとして５つ挙げられている。その第三は以下の通りである。

> 第三、朱子は心と理とを辨別して、心は氣に屬するものとし、陽明は此心即ち是れ理と説いて、唯此心さへ明らかにすれば、理は自ら分かるものとせり、是故に陽明にありては、博く外界のことを研究して理を明らかにするを用ひず、要する所は、唯此心を明らかにするにあるもの。

つまり、陽明学は「心は即ち是れ理」である。井上哲次郎は、西洋概念 Idealism と対応する時に、陽明学の思想から「唯心論」という語をもって対訳していた。「唯心」の新概念は陽明学の思想と一部重なるところから見れば、新概念としての「唯心」は旧来の中国仏典語との関わりが薄く、むしろ陽明学の思想から確立したものであると考えられる。

一方、「唯物論」の漢文注「物一而已、以其流行而言、正面而言、謂之氣、以其凝聚而言、謂之体、以其妙用而言、謂之心、以其變化而言、謂之光、謂之熱」の出典では、同じく王守仁の『伝習録・答陸原静書』に、「以其妙用而言謂之神，以其流行而言謂之氣，以其凝聚而言謂之精」とある。また、『日本陽明学派之哲学』(1990:377) に陽明学を信奉する儒学者佐藤一斎(1772-1859)の学説を紹介した所には、「自流行謂之氣」と見られる。そして、『言志四録』[3]の中より抄出した百二則の中には、「能流行、能變化」の記述が見られる。上記の文と「唯物論」の漢文注との類似から陽明学の影響を受けていると考えられる。また、『日本陽明学派之哲学』には中江藤樹の学説について、

> 藤樹が理氣によりて世界を解釋せんとする處は二元論なり、即ち朱子の世界觀と異なる所なきなり、(…中略…) 是故に藤樹は其一元的世界觀を分明に喝破して「太虚天地人物一貫にして分殊す、譬へば一樹の根幹花實枝葉の分あるが如し、」と云ひ (47 頁)

と述べられている。即ち、理気によりて世界を解釈しようとする朱子の世界観と異なり、心と物質を一元論として統一されていた陽明学の思想に由来していることが分かる。そうすると、Idealism と「唯心論」の対応により、自然に Materialism と「唯物論」と対応することになる。その具体的な理由を第 4 節に論じていく。

したがって、「唯物」も旧来の中国古典語『易経』などとの関わりがなく、新概念に対訳する際に、井上哲次郎は陽明学の思想を吸収した上で、新たな生命を吹き入れた。

3. 複合語の発展に伴い単独使用の衰退

前節では、新概念としての「唯心」と「唯物」の転用過程を見てきた。本節では、辞書による対訳はどう変化するかという問題を見てみたいと思う。

3.1 英和辞書に見られる対訳

『哲学字彙』において、「唯心論」は「Idealism」と「Immaterialism」と対応することが確認できる。一方、「唯物論」は「Materialism」と対応することが分かっている。19 世紀末から 20 世紀初期にかけての英和辞書における対訳を表 2 で確認できる。

表 2 英和辞書に見られる「唯心」と「唯物」

出版年・辞書	著者	唯心	唯物

1862『英和対訳袖珍辞書』	堀達之助	Immaterial 大切ナラザル、物質ナキ、物形ナキ； Spiritual 无形ノ、宗旨ノ、気ノ、心ノ；	Material 質ノ、実体アル、大切ナル
1871『大正増補和訳英辞林』	高橋良昭［ほか編］	Ideal 想像ノ； Immaterial 大切ナラザル。物質ナキ。物ノ形ナキ； Spiritual 無形ノ。宗旨ノ。氣ノ。心ノ；	Material 質ノ。實體アル。大切ナル；物ヲ造リ立ル實體
1873『附音挿図英和字彙』	柴田昌吉・子安峻	Idealism 幻教； Immaterialism 實體ナキ亻、空教； Spiritualism 萬物(バンブツ)ヲ以テ神トスル教(オシヘ)； Materialism 信物教(シンブツケウ)、物	Material 形アル、體アル、實質ノ、緊要ナル；物、料(シナ)、實質、物質；
1882『英和字彙増補訂正改訂 2 版』	柴田昌吉・子安峻	Idealism 唯心論。幻教； Idealist 唯心論家； Immaterialism 實體ナキ亻。唯心論。空教； Immaterialist 空教ニ従フ人； Spiritualism 降神術。唯神論	Materialism 唯物論、物； Materialist 唯物論家； Materialistic 唯物論ノ
1885『英和双解字典』	ピー・エー・ナッタル著・棚橋一郎訳編	Idealism 唯心論。幻教 Immaterialism, s.spiritual existence 質体ナキ亻。唯心論。空教。	Materialism, s.one opposed to spiritualism 信物教。唯物論。物。
1888『和訳字彙：ウェブスター氏新刊大辞書』	イーストレーキ，棚橋一郎訳	Idealism〔哲〕唯心論［按ルニ人ノ物ニ於ケル止タ其ノ形色ヲ知ル而己其ノ實体ニ至リデハ毫モ窺フ能ハズ故ニ古来唯心ノ論アリ心即チ理ナリ］、幻教； Idealist 唯心論者、幻教ヲ守ル人； Immaterialism〔哲〕唯心論、實體ナキ亻、空教； Spiritualism 神密ナル亻；〔哲〕萬物ヲ以テ神トスル教、唯神論［唯物論ノ反對］	Materialism 信物教、物、唯物論； Materialist 信物者、唯物論者； Materialistie 信物者ノ、唯物論ノ
1897『英和字典』	中澤澄男等編	Idealism 唯心論； Idealist 唯心論者； Idealistic 唯心論ノ、唯心論者ノ；	Materialism 唯物論、形體論； Materialist 唯物論者；

		Immaterialism 唯心論、空教	Materialistiet 唯物論ノ、唯物論者ノ
1901『新英和字典』	和田垣謙三著	Idealism 唯心論； Idealist 唯心論者； Idealistic 唯物論の、唯物論者の； Immaterialism 唯心； Immaterialist 唯心論者； Spiritualism 降神教、降神	Materialism 唯物論； Materialist 唯物論者； Materialistic 唯物論の、唯物論者

上記の辞典における対訳から分かるように、1862 年の『英和袖珍辞書』と 1871 年の『大正増補和訳英辞林』には、「Idealism」「Materialism」はまだ収録していない。1873 年の『附音挿図英和字彙』には、ようやく「Idealism 幻教」と「Materialism信物教(シンブツケウ)、物」が登場したが、「唯心論」「唯物論」の対訳が見られない。『哲学字彙』(1881)を出版した翌年、1882 年の『英和字彙 増補訂正改訂 2 版』には「Idealism」の訳語は「唯心論」のほかに「幻教」も追加され、「Materialism」は「物」と対訳した以外に、「唯物論」とも対訳していたことが分かる。『英和双解字典』(1885) は前の辞書の訳語を継承し、「Materialism」に「信物教」を追加した。また、『和訳字彙:ウェブスター氏新刊大辞書』(1888) の対訳語及び注釈を見ると、『哲学字彙』(1881)の記述と同じである。換言すれば、その後の辞書は『哲学字彙』(1881)からの影響を受けていたと言えよう。1901 年の『新英和字典』には「Immaterialism」は「唯心」だけを使って訳すことが見られる。また、『哲学辞典』[4](1905)を調べてみると、

唯心論、唯物論

英 Idealism(Spiritualism),Materialism

獨 Idealismus(Spiritualismus),Materialismus

佛 Idéalisme(Spiritualisme),Matérialisme

というような英語のほかに独仏語の対訳も見られる。上記英和辞書の対訳によれば、「唯心」「唯物」に関する複合語は「唯心論」「唯物論」だけではなく、「唯心論者」「唯物論者」「唯物論家」もあることが分かる。しかし、辞書では複合語の全体像を把握しにくいから、実際の使用状況を調査しないといけないと考えている。

3.2 使用頻度に見られる複合語の割合

本節では、「唯心」と「唯物」の二語の単独使用と複合語の間にどのような関連性があるかという問題を探求していく。

西村貞述・日下部三之介記の『小学教育新篇講義録 第 2 篇』[5] (1884) には、

(1) 萬物ハ唯心ニ存在スルノミニシテ現存スルニ非スト云フ論即チ心外ノ事心外ノ理ナシト主張スル教ヲ唯心論ト稱ヘ宇宙又精神ナル者アルナシ人間ノ心神モ亦唯物質ノ身体ニ在リテ特別ノ組ミ合ヒヲ爲スノ結果タルニ過キスト云フ教ヲ唯物論ト云フ（21 頁）

と述べられている。つまり、「唯心論」と「唯物論」は対応関係を持つと言える。それに対して、「唯心」と「唯物」は、井上円了著の『哲学要領』[6]（1887）には、

(2) 唯物ヨリ發スレハ唯物ニ反リ唯心ヨリ發スレハ唯心ニ反ル是レ所謂理想ノ循化ナリ（6 頁）

とあるように、1887 年になって、「唯心」と「唯物」はペアの新概念として既に形成していた。これは、森鴎外の「精神啓微の評」（1889）より 2 年ほど早いことになる。

次に、二語の発展と細分化によって、単独の使用状況はどうなるのかを考えなければならない。“NDL Ngram Viewer”を利用し、「唯心」・「唯物」の年代の推移に伴って、書物における「唯心」・「唯物」の出現頻度の分布図 2 のように見ることができる。これによると、両語の出現頻度に三つのピークが見られる。その出現件数は表 3 のように示す。

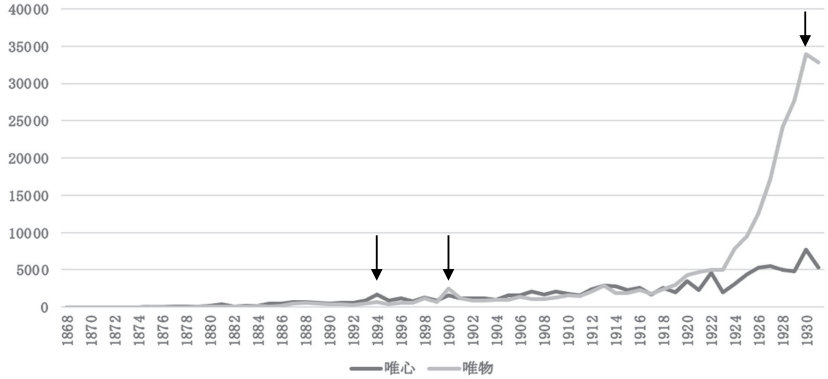


図 2　「唯心」「唯物」出現頻度上位の分布

表 3　ピーク年における「唯心」と「唯物」

年代（件）／語彙	1893 年	1894 年	1895 年	1899 年	1900 年	1901 年	1929 年	1930 年	1931 年
唯心	877	1697	912	901	1528	1182	4806	7661	5310
唯物	442	669	375	649	2545	1217	27723	33956	32829

図 2 と表 3 によれば、1894 年、1900 年と 1930 年では、二語のピークが見える。特に、1900 年以降、「唯物」の出現件数は「唯心」よりはるかに多いことが分かる。なぜこういう現象が現れたのか。それは 1900 年には、『唯物論と神の観念』（ハンス・ハース 著[他]，世光社）、『ジーベルト氏最近独逸哲学史』（（名著綱要文学教育科；[15]）（桑木厳翼述，東京専

門学校出版部)、『社会運動の状況』(第 15、16)(内務省警保局編, 日本資料刊行会)、『哲学概論』(桑木厳翼著,東京専門学校出版部)というような哲学や社会学に関する書物には、「唯物論」と「唯物説」が頻繁に現れていたからである。

しかし、上記の二例の複合語だけでは、複合語と単独使用の関係がまだ見えない。「唯心」と「唯物」に関する全ての複合語を調べる必要がある。次に、それらの複合語を見てみよう。「唯心主義」は、早くも 1881 年の『東京輿論新誌 (56)』[7] (嚶鳴社) に使われている。

(3) 主權ハ社會人民ニ在リトスル時ハ人民ノ心ハ種々變轉ス可シト雖モ仮令機轉スルモ決シテ人民ノ心クルコ外ナラサルナリ論者ニシテ猶ホ異論アラハ乞フ唯心主義(アイデアリズム)ヲ細密ニ稽考シ来タレ (5 頁)

そして、『近代哲学宗統史 第 1 巻(総論)』[8] (1884:45) には、「唯心派」の用法が現れていた。さらに、井上円了著の『心理学:通信教授 第 1』(1886 : 173) には、「唯心力」が見える。『哲学会雑誌 2(14)』[9] (1888 : 105) には、「唯心説」も使われていたこ。翌年の『哲学会雑誌 3(26)』[10] (1889 : 117) には、「唯心的理想論なる」という「唯心的」の用法が見られる。

ほかに、「唯心哲学」は『経済史 (専門学校政治科 1 年級講義録)』[11] (1889:46) に、「唯心界」は 1890 年の『頴才新誌(677)』(頴才新誌社)に使われた。

(4) 佛教ハ開明社會ニハ生存スヘカラサルナリ、然ルニ然ラサルハ習慣ナリ、何ソ淺近且ツ無稽ナル、夫レ佛教ノ妙道至正ナル、唯物界ヲ去テ唯心界ヲ超エ、唯物唯心中道ノ大理ヲ覺得セントスル者ナリ (『頴才新誌(677)』、4 頁)

「唯心観」の使用は 1913 年の『京都法學會誌雑 8(11)』(京都法學會)には見える。

つまり、「唯心」に関する複合語が 1913 年までに、既に「唯心論、唯心主義、唯心派、唯心力、唯心説、唯心的、唯心哲学、唯心界、唯心観」九語の複合が出ていた。一方、「唯物」に関する複合語では、高橋五郎著の『印度史』(1881 : 44) には、「萬物即神説或ハ唯物説」が見られる。しかし、「唯物」の単独使用は『倍因氏心理新説釈義』[12](1883)と『論理新編』[13](1883)にはある。『倍因氏心理新説釈義』には次の通りである。

(5) 印象ハ單一ニシテ概念ハ複雑ナリ即チ印象ニ在テハ唯物ヲ影相スト雖モ未ダ其一ニ過ギズ概念ハコノ印象ヲ結合シテ全体ヲ心裏ニ了スルモノトス (11 頁)

『学芸志林(96)』(東京大学) (1885 : 66) には、「唯物一元」に関する記述は「唯物一元ヲ論スルモノアリ或ハ唯心一元ヲ論スルモノアリ」とある。「唯物界」は東京教育社によって出版された『教育報知(15)』(1885:18)に使われている。「唯物論者」は『東洋心理初歩』[14](1885 : 5)にもある。「唯物的」は『東京茗渓会雑誌(62)』[15](1888 : 9)に「唯物的ノ見解」に使われている。「唯物主義」は『経済範論 上巻』[16](1888)にある。「唯物家」は西村茂樹述の『日本弘道会大意』(1889 : 6)の中に「唯物家ハ唯物論ノ極端ニ走リ」のように使われていた。

更に、「唯物史観」は河合栄治郎著の『英国派社会主義』(1900)に用いられたことがある。「唯物」に関する複合語が哲学、教育、心理学、政治等の専門領域に使われていることが分かる。「唯心」と同じように、既に「唯物説、唯物一元、唯物界、唯物論者、唯物的、唯物主義、唯物家、唯物論」とあって様々な領域に広く用いられていると言える。

『哲学辞典』(1905)には「唯心論、唯物論」が収録され、『岩波哲学辞典』[17](1922)には「唯物論、唯物論」のほかに、「唯物史観、唯物主義」も収録されていた。よって、上述の調査によると、「唯心」・「唯物」による複合語を表4と表5のようにまとめていく。(“Next Digital Library”と“NDL Ngram Viewer”の調査による結果であるが、“Next Digital Library”にあるが“NDL Ngram Viewer”の出現頻度が0になる場合は掲げない。)

表4「唯心」に関する複合語

三字漢語(10)	唯心論、唯心説、唯心的、唯心派、唯心観、唯心者、唯心家、唯心界、唯心力、唯心術
四字漢語(10)	唯心史観、唯心哲学、唯心思想、唯心学派、唯心論拠、唯心主義、唯心論派、唯心論者、唯心科学、唯心一元
五字漢語 (1)	唯心弁証法 (唯心辯證法)

表5「唯物」に関する複合語

三字漢語 (9)	唯物論、唯物説、唯物的、唯心派、唯物観、唯物者、唯物家、唯物界、唯物力
四字漢語 (11)	唯物史観、唯物哲学、唯物思想、唯物学派、唯物論拠、唯物主義、唯物論派、唯物論者、唯物科学、唯物一元、唯物論史
五字漢語 (4)	唯物弁証法 (唯物辯證法)、唯物哲學説、唯物史觀説、唯物史觀論

表4と表5を見ると、「唯心」と「唯物」を語基として作った複合語では、四字複合語が最も多く、その次は三字複合語で、五字複合語は最も少ないことがわかる。そして、「唯心」・「唯物」の複合語の数が大体同じであることから考えれば、「唯心」・「唯物」からの複合語は基本的にペアとして使われていると言える。複合語の全体像を明らかにした上で、先のピークに達する年代を基準として、二語の単独使用とデータベースの両者にある複合語の比率を見てみよう。三字漢語と四次漢語の中に出現頻度が高い語を二語ずつ選んで計算していく。五字漢語には「唯心弁証法」と「唯物弁証法」を対象として取り上げる。

表6　「唯心」とその複合語との比率

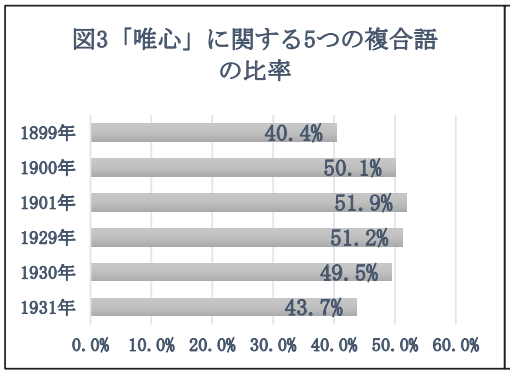
年代 (件) / 語彙	1899年	1900年	1901年	1929年	1930年	1931年

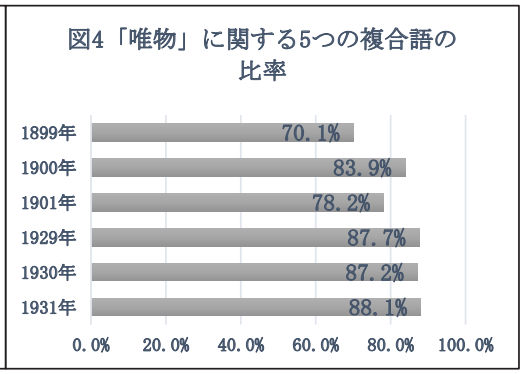
唯心	901	1528	1182	4806	7661	5310
唯心論	36.3% (327)	48.0% (734)	49.7% (587)	46.3% (2225)	44.5% (3409)	39.4% (2094)
唯心説	3.4% (31)	1.4% (22)	1.6% (19)	0.7% (32)	1.2% (89)	0.6% (31)
唯心主義	0.6%（6）	0.4% （６）	0.7% (8)	2.0% (97)	13.8% (106)	14.3% (76)
唯心史観	0	0.２% （３）	0	2.2% (106)	1.3% (97)	1.9% (100)
唯心弁証法	0	0	0	0.08% (4)	0.02% (17)	0.03% (17)
5 つの複合語を合わせて	40.4% (364)	50.1% (765)	51.9% (614)	51.2% (2464)	49.5% (3718)	43.7% (2318)

表 7　「唯物」とその複合語との比率

年代（件） 語彙	1899 年	1900 年	1901 年	1929 年	1930 年	1931 年
唯物	649	2545	1217	27723	33956	32829
唯物論	62.6% (406)	57.1% (1453)	68.1% (829)	63.1% (17482)	61.4% (20833)	61.2% (20106)
唯物説	3.5% (23)	1.0% (25)	2.8% (34)	0.2% (59)	0.1% (50)	0.2% (52)
唯物主義	4.0% (26)	2.9% (73)	7.3% (89)	4.0% (1100)	3.6% (1208)	3.5% (1162)
唯物史観	0	13.9% (355)	0	16.2% (4492)	16.5% (5610)	17.4% (5704)
唯物弁証法	0	9.8% (250)	0	4.3% (1188)	5.6% (1896)	5.7% (1883)
5 つの複合語を合わせて	70.1% (455)	83.9% (2136)	78.2% (952)	87.7% (24321)	87.2% (29597)	88.1% (28907)

上述の表 6 と表 7 の時代推移による複合語の比率の変化をよりはっきり見えるために、図 3 と図 4 のようなグラフを作成した。





上記の表 6 と図 3 から分かるように、「唯心」に関する複合語と単独使用は基本的に一対一の比率である。表 7 と図 4 によれば、「唯物」に関する複合語は時間とともに使用頻度が高くなっている。1931 年になると、複合語と単独使用はほぼ九対一の比率で分布していることが分かる。「唯心」と「唯物」は同じように、複合語の中に、「唯心論」と「唯物論」の比率が最も高いが、ほかの複合語の発展と共に比率が徐々に低くなっている。換言すれば、「唯心」と「唯物」に関する複合語は時間の推移によって多様化している。概念の細分化によって、単独使用或いは単一の複合語の使用は主流ではなくなる。1900 年以降になると、複合語の多種多様化に伴いほぼ単独では用いられなくなっている。

4. 概念史の視点から見る「唯心論・唯物論」と「唯心主義・唯物主義」

上記の調査では、1860 年から 1931 年にかけて「唯心論」・「唯物論」の比率が最も高い。その次は「唯心主義」である。ゆえに、本節では、「唯心論」・「唯物論」と「唯心主義」・「唯物主義」を中心に複合語が如何に展開していたかを概念史の視点から論じたい。

4.1 マルクス思想による「唯心論」「唯物論」の爆発

「唯心論」と「唯物論」に関する用例には、ペアとしての概念が見られるが、その原因がまだ明確となっていないため、Oxford English Dictionary による Idealism と Materialism の意味の変遷について見ていこう。

Idealism については、プラトンの「Idea」から変遷し、哲学用語として、〈心に依存している様々な見解〉という意味が 1743 年からずっと使われていた。1774 年から、更に一般的な意味〈理想化の実践または理想化する傾向〉へと拡張した。1822 年に至って、〈理想化する行為または理想的な表現〉という、より抽象度が低い意味に変化した。一方、Materialism も哲学用語として、1678 年から〈物質或は物質を根本的に存在する信念〉という意味に使用

されていた。1771 年になると、〈物質的なものを強調する生き方〉の意味を含んでいた。1850 年には、芸術の領域にも使用された。更に、19 世紀には、ドイツの哲学者ヘーゲルはこの思想を「Idealism」と共に事態の一面としてとらえていく。その後、マルクスとエンゲルスもヘーゲルの思想を継承し、この二つの概念をさらに拡大していった。

つまり、西洋では Materialism は Idealism より早く使用されていた。そして、Idealism の解釈では、Materialism への批判が見える。Idealism の基本意味が使われている 1743 年から、Idealism は Materialism と対立的な存在になったと考えられる。それ以来、Idealism と Materialism とはペアとして存在していた。よって、日本語としての「唯心論」と「唯物論」もペアとなることも納得できるだろう。

「唯心論」・「唯物論」は 1881 年にはじめて使われ、その後、様々な領域に広く使用されていた。1898 年には、「唯心論」と「唯物論」は、主に『哲学雑誌』(哲学会編,哲学会)、『東亜学会雑誌 2(4)』(東亜学会) 、『仏教心理学講義 (哲学館仏教専修科講義録)』(井上円了述,哲学館)、『列伝体西洋哲学小史 下』(中島力造著,富山房)等の哲学の書物に現れ、頻繁に使われていた。

1900 年には、「唯心論」は多くの哲学書に見られる。例えば、『哲学概論』(桑木厳翼著,東京専門学校出版部)、『哲学叢書 第 2 集』(井上哲次郎編,集文閣)、『純正哲学:シオペンハワー哲学提要 (哲学館第 11 学年度高等教育学科講義録)』(松本文三郎著,哲学館)、『ジーベルト氏最近独逸哲学史 (名著綱要文学教育科;[15])』(桑木厳翼述,東京専門学校出版部) 等が出版されていた。そして、倫理学に関する刊行物にも見られる。『フィヒテ氏倫理学(倫理学書解説;分冊第 6)』(深作安文著,育成会)や『パウルゼン氏倫理学(倫理学書解説;分冊第 4)』(蟹江義丸著,育成会)等が挙げられる。更に、心理学や教育学の書物も、例えば、『最新心理学教科書(二十世紀教科叢書)』(牧瀬五一郎著,三木書店)、『最新教育学教科書(二十世紀教科叢書)』(牧瀬五一郎著,三木書店)、『普通心理学講義』(中島泰蔵述,福島県私立教育会西白河教育部会)、『新編教育心理学』(杉山富槌編,同文館) 等に見られる。そうすると、1900 年に至って、「唯心論」・「唯物論」は哲学、倫理学、心理学、更に教育学の領域へと拡大され、その使用が一時的に急増するという現象が現われた。

また、1930 年には、「唯心論」は思想や社会学にも使われるようになる。例えば、『現代思潮と宗教:附・思想改善策』(武田葛城著,紀州公論社)、『大思想エンサイクロペヂア 2』(春秋社編,春秋社)、『社会学新論』(鳥越一太郎著,大森隆文堂)、『無政府主義と社会主義(改造文庫;第 1 部 第 61 篇)』(プレカアノフ著,百瀬二郎訳,改造社) 等に出た。

同様に、1930 年の「唯物論」は、哲学、倫理学、心理学、教育学の領域のほかに、直接に思想と関わる本に多く見られる。例えば、『世界大思想全集 24』(春秋社)、『辯證法的唯物論入門:近代世界觀講話 改譯普及版』(アー・タールハイマー著,廣嶋定吉訳,白揚社)、『史的唯物論體系』(レーニン[著],アドラツキー編,直井武夫譯,希望閣)、『マルクス学教

科書 第4巻』(エス・セムコフスキイ編,マルクス書房編輯部訳,マルクス書房)、『史的唯物論:マルクス主義社会学の通俗教科書 17版』(エヌ・ブハリン著,直井武夫訳,同人社)等が挙げられる。

従って、1930年になると、「唯心論」・「唯物論」の使用範囲は更に広がり、思想や社会学の領域にもよく使われていた。さらに、マルクス思想の影響により、「唯物論」が直接の研究対象となることから、1923年～1930年の数年間には、「唯物論」の使用頻度は「唯心論」より大幅に増加する傾向があったと思う。

4.2 社会主義思想の繁盛による「唯心主義」「唯物主義」の増加

前述のように、「唯心主義」は早くも『東京輿論新誌 (56)』(1881:5) に使われていたことがある。また、やや遅れて1888年になると、「唯物主義」は『反省会雑誌(6)』(反省会本部) と『経済範論上巻』及び『珂氏倫理学』[18]の中に使用されている。

『珂氏倫理学』は英語の原文を底本として中村清彦が訳したものである。この本は倫理学の参考書として梁啓超の「東籍月旦」[19]の中にも挙げられていた。初心者向けに「倫理学」という学問体系をはじめて中国人に紹介した。その『珂氏倫理学』の凡例[20]によれば、大学生のために書いたもので、日本語を訳す際に、哲学用語は「概ね哲學字彙若くは先輩の定むる所に依る」ものとしている。例えば、「唯物主義」に関する記述は下記の通りである。

(5) 元來宗教上の情操は自然の本能にして、衝動として發作し、また心意を牽制して劣等なる唯物主義に陥らざらしめんとする所のものなり。(134頁)

その後、「唯心主義」と「唯物主義」はあまり頻出せず、第一次世界大戦末期の1917年に至って、政治に関する著書の出版とともにその二語も頻繁に使われていた。例えば、『世界と共に覚めよ』(海老名弾正著,広文堂書店)、『理想の憲政』(江木衷著,有斐閣)、『修養第一』(加藤玄智著,弘学館書店)、『戦闘的人生観』(鹿子木員信著,同文館)、『進むべき道』(南条文雄著,大阪屋号書店)などの書物によく見られる。とりわけ、「唯心主義」は63件のうち、『世界と共に覚めよ』(海老名弾正著,広文堂書店) と『理想の憲政』(江木衷著,有斐閣)にはそれぞれ6件と5件見られる。「唯物主義」は284件のうち、『世界と共に覚めよ』(海老名弾正著,広文堂書店) と『修養第一』(加藤玄智著,弘学館書店)にはそれぞれ10件以上も見られる。このことから、1917年の「唯心主義」と「唯物主義」の多用には『世界と共に覚めよ』が大きな寄与をしたと考えられる。この本の内容を見ると、目次の所に「唯物主義の假面」というタイトルが見えるのみならず、具体的な使用例もある。

(6) その優秀なる所以はその唯物主義あるをいふのではない、寧ろ唯心主義が能く唯物主義を同化せしめて居る所にあるのである。(70頁)

1921 年以降、「唯心主義」は具体的に、『輓近社会思想の研究』（米田庄太郎著,弘文堂書房）、『自由組合論』（賀川豊彦著,警醒社書店）、『世界大戦の教訓と現代思潮批判』（浅賀辰次郎著,宝文館）というような書物に見られる。また、「唯物主義」は、『輓近社会思想の研究』、『十九世紀独逸思想史』（ギンデルバンド著,吹田順助訳,岩波書店）、『現代社会問題の社会学的考察 再版』（米田庄太郎著,弘文堂書房）、『社会主義社会学 訂正再版』（アーサー・リユウス著,高畠素之訳,大鐙閣）、『社会主義宗教批判』（ジョン・スパーゴ著,田村浩訳,三田書房）等の本に現れていた。社会主義思想が盛んになるにつれて、「唯心主義」と「唯物主義」の使用頻度も高まっていったと考えている。また、「唯心主義」は 91 件のうち、『輓近社会思想の研究』（米田庄太郎著,弘文堂書房）に 20 件以上現れている。同時に、「唯物主義」は 644 件のうち、10 件以上が『輓近社会思想の研究』に見られる。その二語の使用において、これらの著作が重要な役割を担っていると推察できる。

更に、1930 年になると、「唯心主義」は、『教育学概論（文化科学叢書;第 8）』（稲毛詛風著,早稲田大学出版部）、『倫理学:稿本』（稲毛金七著,二書房）、『文芸と心理分析』（長谷川誠也著,春陽堂）、『音楽社会学』（マックス・ウェーバー著, 山根銀二訳,鉄塔書院）などの教育学、倫理学、心理学及び社会学様々の領域に使われている。また、「唯物主義」も「唯心主義」と同じように、様々の領域に見られることが分かる。

5. 中国語における「唯心」と「唯物」及び複合語の展開

前述のように、『日国』における「唯心」の意味（1）と（2）は、漢訳仏典と関係しているから、元々中国語に由来したのであろう。事実、中国で出版された『漢語大詞典』では、

【唯心】

❶佛教語。謂一切諸法(指萬事萬物),唯有内心,無心外之法。也稱唯識。

語本『華厳経·十地品』:「三界所有,唯是一心。」

『楞伽経』:「由自心執著,心似外境轉,彼所見非有,是故説唯心。」參見「唯識 」。

❷即唯心主義。

魯迅『三閑集·現今的新文學的概觀』:「倘以為文藝可以改變環境,那是「唯心」之談,事實的出現, 並不如文學家所豫想。」

毛澤東『反對本本主義』:「必須洗刷唯心精神,防止一切機會主義盲動主義錯誤出現,才能完成爭取群眾戰勝敵人的任務。」參見「唯心主義」。

とあるように、「唯心」は同じ仏典語としての使用例が見られ、中国語から日本語へ伝わった用語であると思われる。しかし、中国語における 2 番目の意味〈即ち唯心主義〉を見ると、魯迅（1929）と毛澤東（1930）の例しかが挙げられていないが、日本語では既に井上円了著の『哲学要領』（1887）に使用されていた。従って、中国語における使用は日本語より、時代的に遅いことが分かる。言い換えれば、中国語における「唯心」の新概念は日本語の

影響を受けたのではないかという疑問が湧いてくる。

一方、「唯物」という項目はそもそも『漢語大詞典』には見当たらない。「唯物論」、「唯物史観」、「唯物主義」、「唯物辯證法」、「機械唯物主義」という項目は収録されている。また、『現代漢語詞典(第 7 版)』[21]を確認すると、「機械唯物主義」以外に「唯物論」、「唯物史観」、「唯物主義」、「唯物辯證法」も収録されている。

陳(2019:475)には、「中国で見られた「広訳日書」を通して、中国人留学生の翻訳によってそれらの漢語が逆輸入され、最終的に量をもって勢いづき、いたるところへ浸透していったのである」と述べられている。そうすると、中国語における「唯物」の新概念も日本の翻訳書によって伝った可能性があり、当時の新聞雑誌を手がかりとして新語新概念の受容状況を窺い知ることができる。

5.1 新聞に見られる単独使用と複合語

「唯心」と「唯物」の新意味としての使用は、1907 年 12 月 27 日に『申報』に載せていた「呉提學心儀倍笛」の文章には「泰西倍笛二氏唯心唯物衍」という用法が見られる。その時に、「唯心唯物」の意味をどれほど理解しているかを見るために、「泰西倍笛二氏」の学説に対して同時代の中国にどのように理解されたのかを調べる必要があると考えている。

1902 年 1 月、梁啓超を主筆とする『新民叢報』が創刊された。その雑誌の第一号と第二号の目次を見ると、ベーコンとデカルトの学説を詳細に紹介した「近世文明初祖二大家之学説上篇倍根實驗派之學説」と「近世文明初祖二大家之学説下篇笛卡兒懷疑派之學説」が載せられていることが分かる。これらの文章は 1904 年「近世文明初祖倍根笛卡兒之學説」と題して、『飲冰室文集類編 編下』[22]の中にも収録されている。梁啓超はこの二人を次のように「爲數百年來學術界開一新國士者」と評している。

> ベーコンの窮理の方法は二つにほかならない。一は物観である。格物をすべての知恵の根源とする。自然界のありふれたものから些細なことまで一切に無視できない。二は心観である。自主の精神を持つべきだ。クラゲとエビのように先代の古典伝説に頼るのはいけない。先入観でセルフマスキングしてから、謙虚で穏やかな心で物事が観察できる。これはベーコン実験派学説の一般理論である。この説が世に出るから、従来の空想と憶測の旧習を洗い流す。格致実学はにわかに興じる[23]。
>
> 自由の本質には自己欺瞞の心がないことはデカルトの窮理学の第一である。もしこの方法を用いれば、三つのセクションに分かれている。一は分析である。二は総合である。三は計数である。分析は何か会った時に用心深く分析して、その内面のものを見ていくという意味である。総合は、様々な思想と物事に出会うと、逐次総合し、前後を揃えるという意味である。計数は、観察して考えていることなら、忘れないように一つずつ計算するという意味である。その方法は非常に簡単で詳細である。そうして

論説に最もよいのは実に総合の方法である[24]。

とある。中国においては近代文明へ進化する際に、格物派のベーコンと窮理派のデカルトの学説の伝播過程において梁啓超は欠かせない存在であったと考えられる。新しい学説の導入と共に、「観察、實驗、自由」などの近代新語を中国語にもたらした。

1902 年『新民叢報』の第 18 号に掲載された「進化論革命者頡德之學説」には、「唯物主義」、「唯心主義」、「唯物論者」の用法が見られる。そして、『新世界學報第一二三號』[25]には、「唯物論」という語が見られる。「唯心論」「唯物論者」という二語も「意大利建國三傑傳」[26]に使われていたことがある。「唯心・唯物」と「唯心論・唯物論」は「泰西學術思想變遷之大勢」[27]にも見られる。その中に、

(7) 亞里士多德又調和以上兩家者也。故其説如五色摩尼。隨觀者之眼而異所見。或見爲主唯心論（唯心唯物等語係用佛典語讀者細玩自明所指）。而近於柏氏。或見爲主唯物論。而近於德謨氏。雖然、皆是也。皆非也。亞氏之説實兼兩者而存之者也。

［アリストテレスはまた上記の二家を調和させ、故にその説は五色のモニーのようなものである。見る人によって見るものが異なる。或いは唯心論（唯心唯物等の語は仏典用語であり、読者はよく読めばその意味が理解できるだろう）とみなし、プラトンの説と近い。或いは唯物論とみなし、デモクリストの説と近い。しかし、全てはそうであるが、全てはそうではない。アリストテレスの説は実に両者を兼ねて存在するものである。］

という。割注の「唯心唯物等語係用佛典語讀者細玩自明所指」によれば、中国仏典語の意味を明らかにすれば新概念の理解にも問題がないことが示唆されている。つまり、仏典を読む人ならこの二語の意味が理解できる。しかし、ここでは、梁啓超は明らかにこの二語の転用過程を看過していると考えられる。

また、全国報刊索引[28]を使い、「唯心」と「唯物」を検索すると、1902 に至って、翻訳書の中にその二語が見られる。例えば、『万国歴史』(作新社著, 上海作新訳局) には「唯心論」、「唯心論者」と「唯物論」の用法が見られる。『社会学』(岸本能武太著, 章炳麟訳, 上海広智書局) と『十九世紀欧州文明進化論』(日本民友社著, 陳国鏞訳述, 上海広智書局) には「唯心論」と「唯物論」もある。『権利競争論』(張肇桐翻訳, 両謀社編集, 上海文明編訳印書局) には「唯心主義」「唯物主義」が出ている。なぜ 1902 年になると、急激な変化が起こったのか。日本からの翻訳書も手伝って『新民叢報』における「唯心」と「唯物」の大量使用によって、新概念としての用法が多くの文中に現れていたからである。

次に、「唯心」と「唯物」は同時代の新聞雑誌の中にどのような用法があるかを論じていく。申報は 1872 年 4 月 31 日に創刊し、1949 年 5 月 27 日に廃刊した中国近現代史には重要な新聞資料である。その時期における調査結果では、「唯心」に関連するものは 646 箇所、「唯物」は 1867 箇所であることがわかる。

今回の調査では、「唯心」と「唯物」の単独使用例が少ないが、よく「的」と一緒に連体

修飾として使われている。

（8）以唯心的學術，運用到唯物的人生上面去，這就是中國人的聰明過人處罷

「小春秋週刊 流俗化」『申報』1936-04-06

［唯心的な学術学問を唯物的な人生に適用していくことは、中国人の賢い所だろう］

しかし、「S+唯心/唯物+地+V+O」と「S+副詞+唯心/唯物」の構造はまだ見られていない。単独使用の場合には連体修飾だけに限る。

一方、「唯心」と「唯物」に関する複合語を申報データベースの中に見てみよう。哲学学説の発展及び進化論の影響の下で、1913 年に至って、『東方雑誌』に関する広告には「唯心論」が使われていた。後に、1919 年の「靈子術觀」という文章には「唯心説」と「唯物説」の使い方も登場してきた。そして、1920 年出版された『経済史觀』においては、「唯物史観」が現れた。1926 年になると、「唯物史観」を研究する専門書としての『唯物史觀研究』という書物も刊行された。後に、1930 年に『唯物史觀』も出版され、この本の発行により、「唯物史観」は更に頻繁に使われた。

1920 年においては、「唯物主義」の使用は『馬克思歴史的唯物主義』（常乃直,泰東圖書局）という本の広告に見られる。そして、その六年後、1926 年の『申報』における商務印書館出版新書の紹介欄には『教育哲學』が挙げられ、「唯心主義」もその時期から活発になってきたと考えられる。1930 年に至って、「唯物論」はマルクス思想の影響を受け、広く使用されていた。後に、各思想の発展とともに、「唯心的・唯物的」、「唯心派・唯物派」、「唯心論者・唯物論者」、「唯心者・唯物者」なども頻繁に使われている。

上記の調査と『漢語大詞典』及び『現代漢語詞典(第 7 版)』に基づき、「唯心」に関する複合語は「唯心論、唯心説、唯心的、唯心者、唯心論者、唯心派、唯心史観、唯心哲学、唯心主義」が見られる。それに対して、「唯物」に関する複合語は「唯心」と一緒にペアとしてよく現れることが分かる。それらの複合語は「唯物論、唯物説、唯物的、唯物者、唯物論者、唯物派、唯物史観、唯物哲学、唯物主義、唯物辯證法」である。

5.2 英華辞典に見られる二語のもう一つの受容過程

20 世紀の英和辞書の英華辞典への影響に関して、陳（2019:271-278）には既に論じられていた。「唯心」「唯物」が新概念として伝わったもう一つのルートである英華字典を見なければならない。台湾中央研究院近代史研究所にある英華辞典資料庫を利用して調査すると、1815 年から 1919 年までの代表的な英華辞典には、「唯心」は 16 箇所、「唯物」は 14 箇所収録されていることが分かる。しかし、19 世紀には現れず、全部 20 世紀以降のものとなる。例えば、顔惠慶『英華大辞典』(1908) においては、「唯心」という語が 7 箇所、「唯物」という語が 9 箇所収録されていることが分かる。その結果は下記のようである。

Ideal　唯心論

Idealism（哲）唯心論、理想

Idealismus 唯心論、公義、正大光明論

Idealist 唯心論者

Idealistic　唯心論者的、唯心論的

Immaterialism（哲）唯心論、無物質論、無形物存在論

Immaterialist 無物質論者、論無形物存在者、唯心論派

Corporealist　唯物者，倡無魂主義者，唯物論者

Material 唯物的

Materialism　唯物論，唯物主義

Materialist 唯物論者，主持唯物論者，尊崇形骸主義者，主張實利主義者

Materially　有體，實在，唯物，重要之狀

Materialistic　唯物論的，唯信有物而已的

Materialismus　唯物論

Physicism　唯物論，信物教，哲學及宗教上之唯物主義論

Somatist　唯質論者，唯物論者，實質主義之人，信形體而不信靈魂之人

陳(2019：273)は、顔惠慶『英華大辞典』は「『新訳英和辞典』(神田乃武、三省堂、1902)から直接訳語を援用したことはほぼ間違いない事実である」と指摘している。そのため、『新訳英和辞典』における記述を確認すると、

Ideal　①觀念、②思想的、想像的、③空幻的。

—ism,①理想的ナル冂、理想。②(哲).唯心論。

—ist,唯心論者

Idealistic　唯心論者ノ、唯心論ノ

Immaterialial ①物質ナキ、無形ノ。②重要ナラザル關係ナキ

-ism, ①(哲)唯心論, ②無形物存在

Materialistic 唯物論ノ, 實物主義ノ ,實利主義ノ

Materialism 唯物論, 實物主義 ,實利主義

Materialist　唯物論者, 實利主義ノ人

とある。上記の辞書記述を見ると、顔惠慶『英華大辞典』(1908) とこの辞書の下線部の語は類似していることがわかる。つまり、日本語における新概念は辞書というルートを通して、中国へ輸入したものと考えられる。また、『英華大字典』の訳語に「-論、-的、-者、-論者、-主義」というような複合語が確認できる。

5.3「非述語形容詞」としての「唯心」「唯物」

上記の調査によって近代中国語における「唯心」と「唯物」の複合語としての使い方を明らかにした。しかし、現代中国語になるとこの二語の生産性はどうなるかはまだ分かっていない。1949 年から 2020 年にかけての人民日報における二語の使用状況を見ると、「唯心」には、「唯心+地+V」「不+唯心」「有點唯心」という用例が幾つか見られるが、基本的に「唯心+的」の使用が主流である。その用例は下記のようである。

(9)“天”被神秘化、倫理化了,“人”也往往被剝奪了主體性,或被唯心地注解了。(1996.04.27 第 6 版) ［「天」は神秘化され、倫理化された。「人」もしばしば主観性を奪われ、或いは唯心的に解釈された。］

(10) 雖然覺得有點唯心，但仍感謝那位喇嘛。(2010.06.21　第 24 版)［少し唯心的な気がするが、今でもあのラマに感謝している。］

(11) 始終做到不唯書、不唯上、不唯心，我們就能遠離那些看不見的經驗主義陷阱，把改革事業推向前進。(2017.09.08 第 4 版)［書物に書かれていることを盲信せず、上の指導者の考えに盲従せず、唯心(ただこころ)だけを信じせず、常に心がけて経験主義の目に見えない罠から遠ざかり、改革事業を推し進めることができる。］

例（11）のような使い方が既に哲学の概念とずれて、本来の「唯心(ただこころ)」に回帰したものと考えられる。一方、「唯物」の単独使用がほとんど見えず、変わりに「唯物辯證法」が頻繁に現れている。こうしてみると、中国語における二語は「非述語形容詞」の特徴を帯びるようになり、複合的傾向があると考えられる。

また、現代中国語における「唯心」「唯物」と比べるために、現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ を調査した。その結果、「唯心」は 24 件ある。その中では、主に「唯心論」、「唯心論者」、「唯心歴史観」、「唯心的」の形で使われている。旧意味の場合には下記の用例が見られる。

(12) 面積というものが頭に浮かんできて誤解されやすくなり、唯心の浄土とは、どんな小さい所に圧縮されてあるのかということになります。(PB25_00122)

しかし、日本語における「唯心」の使い方には上記の中国語の用例（9）（10）（11）のような用法が見当たらない。一方、「唯物」は 200 件ある。その中では、主に「唯物論」、「史的唯物論」、「唯物主義」、「唯物論者」、「唯物史観」、「唯物的」、「唯物弁証法」、「唯物科学」、「唯物思想」、「唯物万能主義者」として使われている。単独使用は一例しかない。

(13) この「唯物」というよび方は、マルクスの時代の哲学者がひんぱんに使った特殊な意味の「観念論」ということば…… (PB32_00031)

こうみれば、日本語と中国語における「唯心」「唯物」は基本的に複合語として使われている。しかし、日本語のほうが複合語の種類が多く、「唯心歴史観」、「唯物万能主義者」のような語をさらに産出させている。

6. まとめ

日中両言語における「唯心」と「唯物」は、仏典語として単独に使われていた。後に、新概念と対応するために、最初に「-論」という複合語から「-主義」・「-説」へとどんどん増えていった。また、これらの複合語の増加につれて、「唯心」と「唯物」は 1900 年以降になってから、ほぼ単独では用いられなくなってしまう。「唯心」と「唯物」はペアを成す概念として確立され、多くの複合語の産出をもって語彙の近代化に対寄与したと考えられる。

もちろん、これらの複合語の使用は当時の社会発展と密接不可分な関係を持っている。複合語「唯心論」・「唯物論」の展開により、哲学、倫理学、心理学、更に教育学の領域にわたって急増していることが見られる。更に、1930 年には、マルクス思想の影響により、「唯物論」に関する本が相続いて刊行され、「唯心論」・「唯物論」が頻繁に使われるようになっていた。そして、「唯心主義」・「唯物主義」は社会主義思想の発展とともに、広く使われていた。

一方、中国語における新概念としての「唯心」と「唯物」の受容では、梁啓超は大きな役割を果たしたと言える。『新民叢報』において「唯心」と「唯物」の大量使用により、「広訳日書」の流れに乗って二語による複合語を一気に中国に広がっていた。最初に、中国語における二語による複合語の使用は日本語より少ないが、1930 年頃にはマルクス思想の影響を受けて、両国においてはほぼ同じように展開されていった。それにより、「唯心」と「唯物」は連体修飾専用の「非述語形容詞」の性質を持つようになり、中国語において単独使用が出来なくなる傾向があるが、「不唯心」のような独特な用法も現われた。

【注】

1) 井上哲次郎（1973）『井上哲次郎自伝』富山房。
2) 井上哲次郎（1990）『日本陽明学派之哲学』富山房。
3) 『言志四録』とは、『言志録』『言志後録』『言志晩録』『言志耋録（てつろく）』の全四巻を総称したものであり、内容は学問、思想、人生観など多義にわたり、修養処世の心得が 1133 条にわたって書かれた随想録である。
4) 朝永三十郎（ 1905）『哲学辞典』著宝文館。
5) 西村貞述, 日下部三之介記(1884)『小学教育新篇講義録 第 2 篇』金港堂。
6) 井上円了(1887)『哲学要領』哲学書院。
7) 1881 年、『東京輿論新誌(56)』嚶鳴社によって刊行された。
8) ヴヰクトル・カウシン 著, ヲ・ダブリュウ・ウェート米訳, 竹越与三郎重訳(1884)『近代哲学宗統史 第 1 巻(総論)』。

9)東京帝国大学文学部哲学会編(1888)『哲学会雑誌 2(14)』。

10)東京帝国大学文学部哲学会編(1889)『哲学会雑誌 3(26)』。

11)天野為之述,山沢俊夫編(1889)『経済史 (専門学校政治科 1 年級講義録)』。

12)麻生繁雄 編,井上哲次郎閲(1883)『倍因氏心理新説釈義』同盟舎。

13)惹穏 (ゼボン)著,添田寿一訳,井上哲次郎閲(1883)『論理新編』丸家善七。

14)雲英晃耀著(1885)『東洋心理初歩』。

15)東京茗渓会事務所(1888)『東京茗渓会雑誌(62)』。

16)エミール・ラヴレー著アルフレッド・ダブリウ・ポーラード 英訳, エフ・ダブリウ・トーシッグ 補[他] [他] (1888)『経済範論 上巻』敬業社。

17)宮本和吉等編(1922)『岩波哲学辞典』岩波書店。

18)ケルダーウッド著中村清彦訳 (1888)『珂氏倫理学』開新堂 。

19)梁啓超は「東籍月旦」(『新民叢報』(1903)) の中に、倫理学の必読書(2 冊)と参考書(14 冊)の書目が挙げられていた。必読書は①元良勇次郎著(1900) 『(中等教育)倫理講話東京右文館、②井上円了著 (1887)『倫理通論』東京普及社である。参考書は①『(中等教育)倫理学教科書』(ポール・ジャネー著、岡田良平講述)、 ②『新編倫理教科書』(井上哲次郎・高山林次郎合著)、③『修身原論』(フランク著、河津祐之訳)、④『倍因氏倫理学』(アレクサンダー・ベイン著、添田寿一訳)、⑤『珂氏倫理学』(ケルダーウット著、中村清彦訳)、⑥『斯氏倫理原論』(スペンサー著、田中登作訳)、⑦『倫理学新書』(ヘルマン・ロッツェ著、立花銑三郎訳)、⑧『倫理学』(元良勇次郎著)、⑨『越氏倫理新篇』(シー・シー・エッブェレット著、渡辺又次郎訳)、⑩『倫理学説十回講義』(中島力造編)、⑪『倫理学史』(山本良吉著)、⑫『東洋西洋倫理学史』(木村鷹太郎著)、⑬『主楽派之倫理説』(綱島栄一郎講述)、⑭『賽斯氏倫理学綱要』(田中達・渡辺竜聖共著) これらの本はすべて日本人の手によって翻訳或いは編訳された欧米の倫理学の書物であり、読者にとって利用しやすいと梁啓超は評していた。

20)その凡例には「この書は原名を「ハンドブック、オフ、モーラル、フヰロソフヰー」と云ひエデンバラ大學の倫理學教授、博士ケルダーウッドの著はす所にして千八百八十六年(第十三版)倫敦府の刊行に係る。

この書は彼邦の大學々生の爲めにとて特に著はしたる所なるが故に原本には多く參考用書を記しまた諸大家の説を掲げたる所には一々引用書目を載せたれども我邦の讀者には煩しきのみならず差して要なければ爰には畧しつ。

哲學上の用語は概ね哲學字彙若くは先輩の定むる所に依る一書中眼目の字句には其傍に〇點を施玄また他書より引用したるものには丶點を着く。」と述べられている。

21)中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編(2016)『現代漢語詞典(第 7 版)』商務印書館

22)梁啓超(1904)『飲冰室文集類編 編下』下河辺半五郎。

23)『飲冰室文集類編 編下』(1904)「倍根窮理之方法。不外兩途。一曰物觀。以格物爲一切智慧之根原。凡對於天然界至尋常至粗淺之事物。無一可以忽略。二曰心觀。當有自主的精神。不可如水母目蝦。倚賴前代經典傳説之語。先入爲主以自蔽。然後能虚心平氣以觀察事物。此倍根實驗派學説之大概也。自此説出。一洗從前空想臆測之舊習。而格致實學。乃以驟興。」

24)『飲冰室文集類編 編下』(1904)「自由之性無自欺之心。笛卡兒窮理學之第一義也。若其用之之方法。則分爲三段。一曰剖析。二日綜合。三曰計數。剖析者。謂凡遇一事物。務用心剖析之。以觀其内之包容何物。是也。綜合者。遇諸種之思想及事物。次第逐一總合之。使前後整齊。是也。計數者。凡所觀察所思想之事物。一一計算之。而不使遺忘。是也。其方法甚簡易面甚詳盡。而持論尤精者。實在綜合之法。」

25)1902 年、『新民叢報』の第 18 号の「紹介新著」に載せていた。

26)1902 年、『新民叢報』(第 9 、10、14、15、16、17、19、22 号) に「意大利建國三傑傳」があるが、その二語は『新民叢報』(第 9 号) に見られる。

27)1902 年、『新民叢報』(第 6 号) に「泰西學術思想變遷之大勢」がある。

28)全国報刊索引は上海図書館所蔵の清末から民国期にかけて発行された雑誌・新聞を収録したデータベースである。

参考文献

王立達(1958)「現代漢語中從日本語借来的語彙」『中国語文(2)』90-94

陳力衛(2001)『和製漢語の形成とその展開』汲古書院

陳力衛(2019)『近代知の翻訳と伝播―漢語を媒介に―』三省堂

陳力衛(2021)「近代訳語のいわゆる転用語について―「文学」と「教育」を例として」『中国語学(268)』22-53,日本中国語学会

データベース

国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/

申报数据库 (1872-1949)

現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ

https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search

人民日報 http://data.people.com.cn/rmrb

中央研究院近代史研究所英華辞典

https://mhdb.mh.sinica.edu.tw/dictionary/index.php

中国哲学書電子化計劃 https://ctext.org/zh

全国報刊索引 https://www.cnbksy.com